

令和4年5月25日

会員のみなさまへ

5月17日、ルブラ王山で校長会定期総会が行われました。

わたくしは、来賓として呼ばれ、開会式で祝辞を述べさせていただきました。

そのときの挨拶原稿を掲載いたします。

ただし原稿どおりにはお話ししなかったもので、その点をご了解いただきたいと思います。

なにしろ5人もの来賓が次々に祝辞を述べますので、

5人目のわたくしは時間調整役も兼ねています。

(自分でそう思っているだけなのですが)

それに加えて、原稿を見ずに話をしたため、脱線したり、ショートカットしたり、

ということで、ご理解いただきたいと思います。

校長会の皆様こんにちは。校長会旧会員の会の山田でございます。

皆様はいずれ旧会員の会に加入されます。ただし一つだけ条件があります。

それは、ご退職まで健康を維持していただくということです。

さて、わたくしがかつて校長会長を務めていたときのお話から入ります。

これは県立の話で、名古屋市の方には申し訳ありませんが、少しは参考になるとと思います。

毎月行われる理事会では教育委員会からの指示連絡があります。

あるとき「新規事業をつくったので各学校はこれこれこういう業務を行ってください」というお話がありました。

わたくしは答えました。「わかりました。やりましょう。ただ一つ、お聞きしたい。この際減らしてもいい業務があったら指示してください。それとも学校にはまだゆとりがあるとお考えですか？」

いじわるな質問でした。わたくしの性格がにじみ出ています。

教育委員会は戸惑ったと思います。

けれどその後、教育委員会は多忙化解消のための会議を立ち上げてくれました。

校長会からもわたくしを含め何人かがその会議に参加して、意見交換をしながら一応のまとめをつくりました。

その他にも教育委員会は学校の負担軽減のためにさまざまな努力をしていただいたと思います。

ありがたいことです。

学校は水の入ったバケツです。

バケツにどんどん水を入れると、いつか必ずオーバーフローします。

「いや、まだオーバーフローしていないよ」とおっしゃる校長先生がいるかもしれません。

バケツの底に穴が開いていませんか？ その穴から何がこぼれ落ちていませんか？

もし子供たち一人一人のための大切な仕事少しずつこぼれ落ちていたら大変です。

学校には期限のある仕事と期限のない仕事があります。期限のない仕事のほうが大切ですが、後回しになってしまいます。それが少しずつこぼれ落ちてしまうと事件事故につながります。

まずは穴を見つけてそれをふさぐのが先決です。

その上でバケツがオーバーフローしないように校長先生は交通整理をしていただきたい。  
バケツの水の量をコントロールしていただきたい。  
これは学校の最高責任者である校長先生にしか出来ない仕事です。  
学校全体の交通整理だけでなく、校長先生ご自身の仕事についても交通整理が必要です。

学校を外から見ているだけのわたくしですが、学校はますます忙しくなっているように思います。  
コロナ禍になって以来、学校は感染防止対策をはじめ、さまざまな対応に追われています。  
愛知県の公立高校入試においては二次募集と定員割れがひどくなりました。  
学習意欲のない生徒に対する指導上の問題が多発するという心配があります。  
教員採用についても志望者が大幅に減っています。  
教員の資質低下が心配されますし、教職の魅力が減っていること自体が大問題です。  
こうしたことはすべてが教育活動全体に大きな影響を及ぼします。  
学校事故や職員の不祥事を防止するための仕事も手抜きできません。  
いまこそ交通整理をきちんとして校長先生のご健康を維持していただきたい。

長くなりました。校長会のますますのご発展と皆様お一人お一人のご健康を心からお祈りして  
わたくしのごあいさつといたします。

以上があいさつ原稿です。では次号をお楽しみに。 山田賢一